

## 義務教育学校第9学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学附属小学校

指導者 小谷 隆男

### 1 題材

ふるさと下市町の「宝物」から、SDGsを考えよう！

### 2 目標

- ・ 前期課程で探究的な学習として実施した「下市町の宝物」から、後期課程では下市町の課題を見つけ、自らテーマを設定して、様々な角度から（STEAMな視点で）アプローチをし、解決方法に近づいていくこと、その過程に取り組むことを目標とする。
- ・ 町への貢献意識や課題解決意識を向上させる。
- ・ 自らの進路選択に関して、主体的な行動をとることができるようになる。

### 3 指導について

#### (1) 教材観

本教材は、吉野郡・下市町の「郷土学習」と SDGsへの理解をねらった「下市学」の一環とすることを想定した。

- ・ 下市町の木材産業（わりばし、三宝など） ・ 商業の街下市「手形発祥の地」
- ・ 吉野川と秋野川 ・ 初市 ・ 後醍醐天皇と南朝の歴史 ・ 天誅組 ・ 岡峯古墳
- ・ 下市漆器 ・ 紙漉き ・ 梅（広橋梅林） ・ 旧校舎の PC 再生工場
- ・ PAL（アパレルメーカー）との関わり などから見えてきた課題をテーマに設定。

それぞれが興味をもった「下市町の宝物」に関して、下市町の課題やこれらを見据えたテーマを自分なりに設定し、調べ、疑問を持ち、探究する中で、SDGsとのつながりを発見する。そして該当するSDGsを考え、グローバルな視点で広げて自分なりの結論を導き出す。

- ex 「材木はプラスチックの代わりになるか」 ↔ SDGs14:「海の豊かさを守ろう」  
「下市の人口増計画」 ↔ SDGs11:「住み続けられるまちづくり」  
「割り箸を世界中に広めるとしたら」 ↔ SDGs15:「陸の豊かさを守ろう」  
「吉野川の水、世界の水」 ↔ SDGs6:「安全な水とトイレを世界中に」

#### (2) 生徒観

下市町の中学生を想定している。下市町は小中一貫教育を実施しており、令和5年度から義務教育学校がスタートした。前期課程では、下市町の歴史や特産物などについての学習を進めている。また、過疎の現実も実感しており、それに対して下市町が「にぎわい創出」に取り組んでいることも知っている。また、ふるさと下市町に対して愛着と誇りを持っている生徒が多いので、主体的に下市町の課題や将来の姿を考えていける。

### (3) 指導観

総合的な学習の時間を中心とした課題解決学習は、答えのない仮説や例題をテーマとして設定し、全教科の知識・技能を総動員して、その解決のための試行錯誤を行う。教員は答えを教える役割ではなく、学びの中心は対話であり、様々な情報収集、意見交流、体験活動、発表や報告などを通して、自分なりの結論を見つける。

社会に開かれた教育課程を重視し、課題解決や価値創造を目標にして教科横断的学習を展開し、ベクトルを地域社会へ向ける。吉野郡・下市町が教室となり、そこからグローバルな視点へと広げていく。下市のことを学ぶというより、下市のことをきっかけに広い視野で学ぶ。

主体的で対話的な学びを、一人1台端末やICTを活用して実現する。

### (4) ESDとの関連

○ 本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

・多様性 ・有限性 ・公平性 ・責任性

○ 本学習で育てたいESDの資質・能力

・コミュニケーションを行う力 ・長期的思考力

・批判的に考える力 ・進んで参加する態度

○ 本学習で変容を促すESDの価値観

・世代間の公正 ・世代内の公正 ・自然環境や生態保全を重視する

・幸福感を大切にす

○ 達成が期待されるSDGs

SDGs11:「住み続けられるまちづくり」 SDGs14:「海の豊かさを守ろう」

SDGs15:「陸の豊かさを守ろう」 SDGs6:「安全な水とトイレを世界中に」 など

## 4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 町の産業・文化、施策や支援について理解する。	① 町の課題や目標についての自分なりの解決方法を考えられる。	① 積極的に情報を集め、多様な視点から考えようとしている。
② 町の現代的な課題や目標について理解する。	② 自分の将来の暮らしを考えたとき、どのような支援や改善があればよいか考えられる。	② 班員で協力して、お互いの学びを高め合おうとしている。
③ 発表におけるスキルを習得し、他者と意見交換ができる。	③ 町民全員にとっての住みやすい町、豊かな町について考えられる。	③ 身近なテーマを、グローバルな視点へ広げて考え、SDGsとのつながりを意識し、世界を取りまく課題を解決しようという態度を身につけている。
		④ これから生きていこうとする自分の将来を、自らの言葉で文章としてあらわそうとする。

## 5 単元の指導計画(全12時間)

次	主な学習活動	学習への支援	評価(△) 備考(・)
1 次 2h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで前期課程での学習を踏まえ、自分にとっての「宝物」ランキングを決める。</li> <li>・班内でランキング発表とその理由を伝える。</li> <li>・「宝物」を1つ限定し、それに関わっての現代的課題や関連する事項等を見つける。</li> <li>・課題解決の仮説を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「割り箸」は下市の地場産業であるが、工場は減少。下市町全体の人口も減少している。</li> <li>・「割り箸」の需要が減っているのか。安い輸入材の流通。</li> <li>・「割り箸」を世界に広めることはできないか。</li> <li>など、グループで話し合う中で仮説を考えるように支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ア①、② イ①</li> <li>・前期課程での学習には、個別の違いがある。</li> <li>・「宝物」にはそれぞれの課題がある。</li> <li>・グループ共通でなくてよいが、協働できるようにしたい。</li> </ul>
2 次 2h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について、アプローチ。情報収集。</li> <li>・グローバルな視点で、日本各地や世界との関連性を調べる。SDGsとの関連性を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に「割り箸」の現状を地元から聞き取る。</li> <li>・世界の食器(スプーン)を調べてみる。コンビニでの簡易食器の現状。マイクロプラスチック。</li> <li>など、視点をグローバルに支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ウ①、②、③</li> <li>・関連が飛躍し過ぎないようにする。</li> </ul>
3 次 2h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中経過を協働グループ内で発表。意見交換</li> <li>・さらに、仮説の検証を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに考えた「宝物」へのアプローチをグループ内で共有。</li> <li>他の人のアプローチを知る。</li> <li>など、他の人の良い点から、自分の仮説検証を見直すよう支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ア③</li> <li>・パワーポイントの共有</li> <li>・相互アドバイス</li> </ul>
4 次 2h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内への発信。役場の方々への発信と交流会。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実に課題に対応している町役場の方々の意見を参考にする。</li> <li>・産業や人口減に対応する仮説を聞いてもらう。</li> <li>「販わい創出事業」など、現実の町の努力に気付くよう支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ア②、③、イ①、②、③</li> <li>・町長と副町長へ</li> <li>・現在の誘致企業など</li> </ul>
5 次 2h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「下市学」発表会。</li> <li>・全校生徒への発信。保護者や関係者の招待。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼン方法を支援</li> <li>・多くの人に伝わる話し方や資料の作成方法についての支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ア③</li> <li>・「下市学」学習発表会</li> </ul>
6 次 2h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果と課題を、卒業論文にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら達成感を感じさせたい。卒業後も、何かしら自分の生き方に残っていくようなまとめにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ウ④</li> <li>・卒業文集</li> </ul>

